

授業の考察①<小学校> 「怒りについて考えよう」

考察の視点

支え合う人間関係を築くための支援の在り方として、ピア・メディエーションに関する活動プログラムの開発をしてきました。この活動プログラムの有効性について、小学校6時間の授業を、以下のⅠ、Ⅱの2点を視点に考察します。

授業の考察の視点

- | |
|------------------|
| Ⅰ 本時のねらいを達成できたか |
| Ⅱ 次時につながる内容であったか |

なお、考察のために抽出した児童の記述については、ワークシートと振り返りシートの記述を直接引用しています。

Ⅰ 本時のねらいを達成できたかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

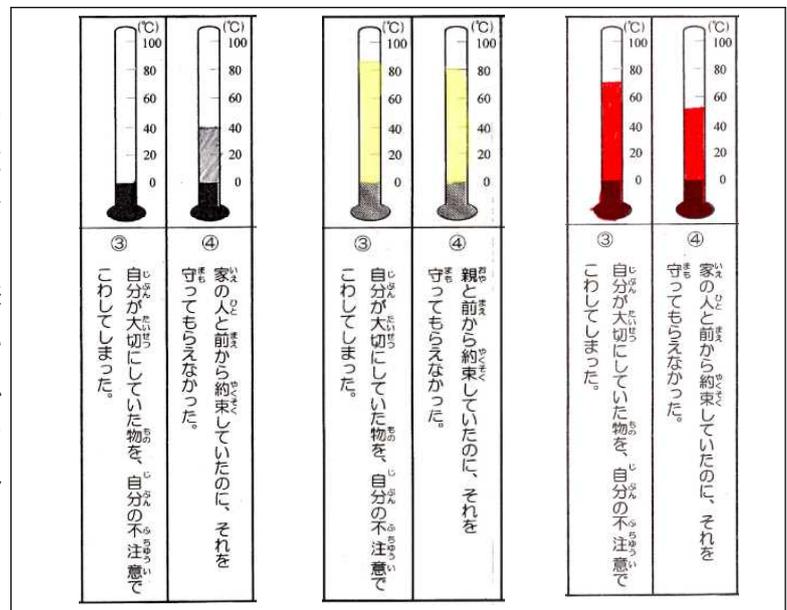
本時のねらいを達成できたかを、次の表1の「本時のねらいを達成することができたかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表1 本時のねらいを達成することができたかを判断する目安

- | |
|---|
| ・振り返りシートの質問項目「怒りの温度は人それぞれちがうことが分かりましたか」で、「分かった」「だいたい分かった」の合計が80%以上であること |
|---|

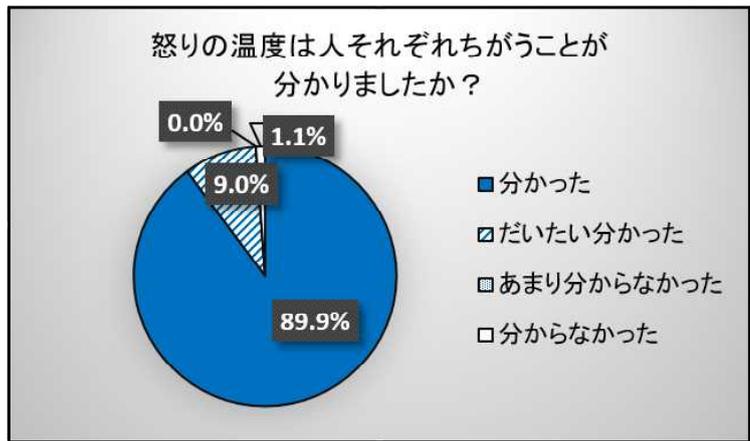
1 怒りの温度の違いについて

○自分の怒りの温度について考えて、各自で怒りの温度計を作り数値化しました。それぞれで作った「怒りの温度計」を見ながら、グループの友達と怒りの温度を比較しました（資料1）。ワークシートを指差しながら同じ場面の温度の違いを見比べる様子が見られ、温度が違う場面についてはその理由を説明して違いを確認していました。同じ場面でも、どの程度怒りを感じるかは、人それぞれ違うということに気付くことができました。



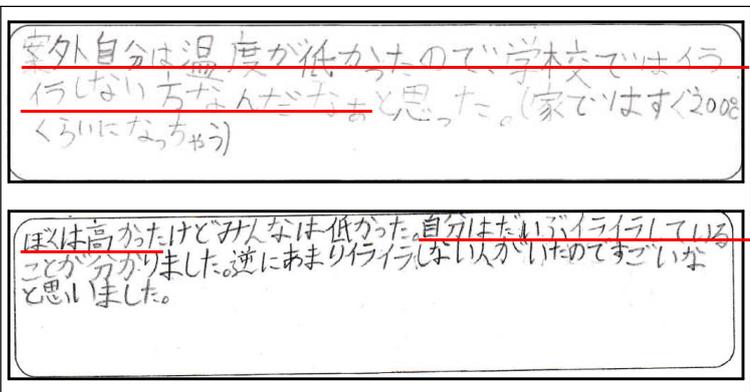
資料1 「怒りの温度計」の比較(ワークシートより)

○振り返りシートの「怒りの温度は人それぞれちがうことが分かりましたか」の質問に対して「分かった」「だいたい分かった」と回答した児童の合計は98.9%で、怒りの感じ方が人によって違うことに気づき、怒りの感じ方についての理解を深めることができました（資料2）。



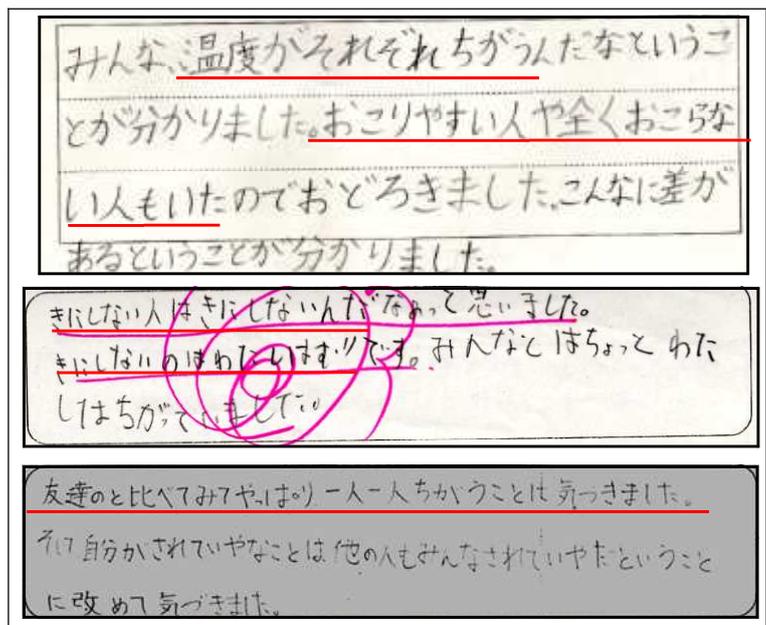
資料2 怒りの温度は人それぞれ違うことについてのアンケート結果(振り返りシートより)

○全ての児童が自分の怒りの感じ方を温度計を例にして、数値化することができました。普段は考えることのない自分の怒りについて数値化することにより、場面や個人によって怒りの温度が違うことに気付くことができたと考えられます。また、提示された6つの場面について自分の怒りを温度計に表すことで、自分の怒りについての理解を深めることができました（資料3）。



資料3 自分の怒りの温度計を作ることができたかの児童の感想(ワークシートより)

○グループでの話し合い活動を通して、同じ場面でも怒りの温度が人それぞれ違うことに気付くことができ、自分や友達の怒りに関する理解を深めることができました（資料4）。



資料4 怒りの温度は人それぞれ違うことについての児童の感想(ワークシートと振り返りシートより)

以上のことから、児童は怒りの感じ方についての理解を深めており、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であったことが分かりました。

Ⅱ 次時につながる内容であったかについての考察

○は成果、◇は展開案やワークシート等の修正等に関する内容です。

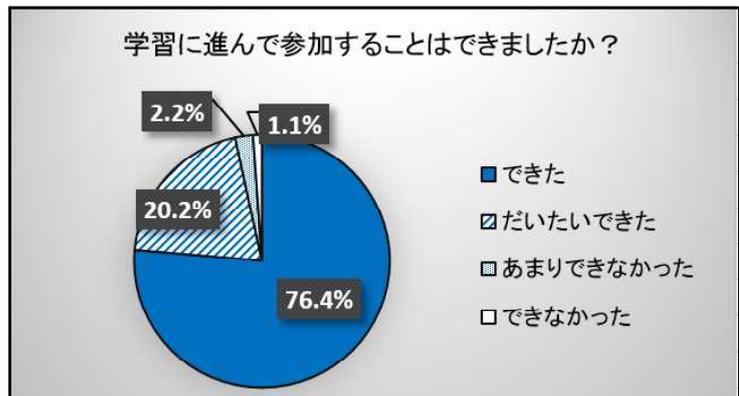
次時につながる内容であったかを、Ⅰの本時のねらいを達成できたかについての考察と併せて、次の表2の「次時につながる内容であったかを判断する目安」を基に、ワークシートの記述及び振り返りシートの結果と記述から考察します。

表2 次時につながる内容であったかを判断する目安

・振り返りシートの質問項目「学習に進んで参加することができましたか」で、「できた」「だいたいできた」の合計が80%以上であること
・振り返りシートの質問項目「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」で、「思う」「少し思う」の合計が80%以上であること

1 学習に進んで参加することができたかについて

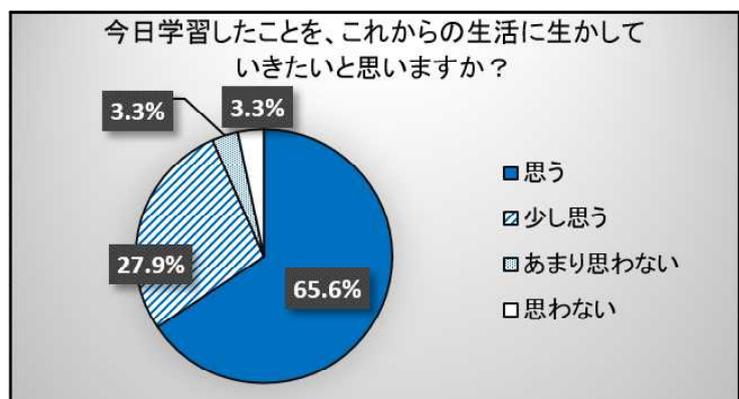
○振り返りシートの「学習に進んで参加することができましたか」の質問に対して「できた」「だいたいできた」と回答した児童の合計は96.6%で、ほとんどの児童が学習に対して意欲的に取り組んだことが分かりました（資料6）。



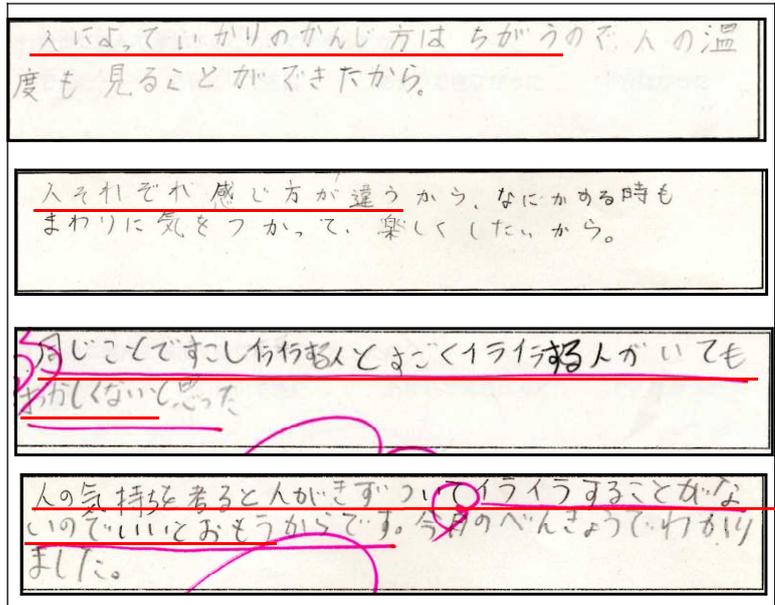
資料6 学習への参加状況についてのアンケート結果(振り返りシートより)

2 学習内容の今後の活用について

○振り返りシートの「今日学習したことをこれからの生活に生かしていきたいと思えますか」の質問に対して「思う」「少し思う」と回答した児童の合計は93.5%でした。自分や友達の怒りの感じ方を客観的に捉えることにより、自分が怒りを感じたときや友達と接するときどのように対処したらよいかについて考えることから、本時の学習をこれからの生活に生かしていきたいと考えていることが分かりました（資料7、次頁資料8）。



資料7 学習内容の今後の活用についてのアンケート結果(振り返りシートより)



資料8 学習内容の今後の活用についての
児童の感想(振り返りシートより)

以上のことから、本時の授業が本時のねらいを達成する内容であるとともに、児童が学習に参加したり学習内容を活用したりする意欲が見られ、次時の学習につながる内容であったことが分かりました。